



ついこの間、新年度が始まったかと思えば、夏休みを過ぎてもう9月。年度の折り返し地点です。でも、授業も行事もこれからが一番充実する時期。残暑に負けず、張りきっていきましょう。教育ライブラリーには、たくさんの教育図書、研究紀要・論文、教育雑誌、視聴覚資料などがあります。研究や研修にぜひお役立てください。教育ライブラリーでは、閲覧はもちろん貸出もできます。基本的に土曜日も利用できます。開館予定日は当ホームページでご確認ください。

書籍紹介

①「発達障害大全 『脳の個性』について知りたいことすべて」

黒坂真由子/著

(日経 BP 2024 年発行)

フリーランスの編集者・ライターでお子さんが発達障害の当事者である著者が、約2年間にわたって続けてきたインタビューをもとに本書は編集されています。お子さんが発達障害であることがわかり、いろいろ調べたもののなかなか理解できず苦しんだ経験のある著者が、発達障害の「あったらよかった1冊」を目指してつくったとのこと。各章は「インタビュー」と「インタビューして考えた」という2つのパートで構成されています。インタビューは、「外側の視点」として10人の発達障害に関する専門家・第一人者、「内側の視点」として3人の当事者を対象として行われており、発達障害について知っておきたい多くの分野を網羅しています。「大全」という書名からも想像できるように600ページ近い大部の本ですが、インタビューに応じる形で基本的な事柄も含めて説明があり、予備知識を必要としない内容になっています。また、どの章から読み始めても理解できるようになっているので、読み通さなければと構える必要もありません。気になるところから読み始めてどんどん引き込まれ、気が付けば全部読み終えていることでしょう。最後のインタビューは、発達障害当事者で「ニトリ」創業者である似鳥昭雄さんへのインタビューです。波乱万丈の人生に感心するとともに、その前向きな姿勢に勇気をもらえます。

②「マンガでわかる！発達障害とグレーゾーンの人が見ている世界大全」

柏淳/著

(交響者 2025 年発行)

発達障害に関する一般書はたくさんありますが、これほど分かりやすい本はないと言っているかもしれません。発達障害のさまざまなケースがまずマンガで表現されていることも理由の一つかもしれませんが、それぞれのケースに対する解説もなかなか秀逸で、目配りの効いた深い内容をとても易しい言葉で理解させてくれます。大人の発達障害を専門とする医師である著者自身も子どものころからASD（自閉スペクトラム症）やDCD（発達性協調運動障害）の特性をもっていたようで、それが障害にならなかったのは「たまたま自分に合った環境を選択し、上手に定型発達の人に合わせて擬態できていたため」とのこと。本書の分かりやすい解説の中に、発達障害に関する理解が広まり発達障害の人が少しでも生きやすい社会になればという愛情が感じられるのも納得がいきます。

雑誌紹介

雑誌名	号	特集等（抜粋）
国語教育 (明治図書)	9月号	【特集1】子どもの「問い」でつくる授業術大全 ◇子どもの「問い」を生み出す授業づくりのコツ ・教師の役割と授業デザイン ・授業づくりの4つのステップ ◇子どもの「問い」でつくる授業デザインの技術 ・教材研究 ・単元設計 ◇子どもの「問い」を引き出す導入の技術 ・教材との出会い ・課題提示 ・言葉がけ ◇子どもの「問い」を広げる展開の技術 ・発問 ・ペア学習 ・板書 ・グループ活動・全体交流 ◇子どもの「問い」を深めるまとめの技術 ・振り返り ・単元展開 ◇教材別 子どもの「問い」でつくる授業の実践ガイド 【特集2】令和8年度 全国学力・学習状況調査の見方・活かし方
社会科教育 (明治図書)	9月号	【特集】協働的な学びで育てる！社会参画意識を高める授業モデル ◇重視したい社会参画意識の醸成過程 ◇「自分事」「多角的」「発信」を重視する ◇未来予測から考える「社会課題」の取り上げ方 （少子高齢化社会と社会保障、防災・減災問題、エネルギー・環境問題） ◇学校外施設・人材との連携から考える社会参画意識を高める授業デザイン ◇子どもの実感として「伝わる」社会参画授業づくり 私のおすすめ鉄板授業ネタ ベスト3 ◇授業最前線（小学校、中学校、高等学校） 【連載】わが県の情報 ここに「この授業あり」 香川県の巻 香川大学教育学部教授 鈴木 正行
数学教育 (明治図書)	9月号	【特集】教師のさじ加減 教え過ぎ／任せ過ぎはなぜ起きる？ ◇なぜ「考えさせているようで教え込んでいる授業」になってしまうのか ◇なぜ「活動あって学びなしの授業」になってしまうのか ◇授業場面、授業技術別で見る 教え過ぎ／任せ過ぎに陥らない「教師のさじ加減」 【連載】◇「動く点P問題」をグラフで攻略 ◇こんなときどうする？ ペア学習・グループ学習の対応術 間違いを教え合っているときにどう対応する？ ◇生徒が自ら課題を見いだすための Scratch 教材
理科の教育 (東洋館出版社)	9月号	【特集】私の考える理科の「中核となるもの」 ◇科学的リテラシーを社会的実践へとつなぐ理科授業に関する論考 根拠に基づく思考・判断・表現と教師の専門性の視座から ◇「中核となるもの」の統合的な理解をどのように実現するのか 中学校理科における力や慣性及び慣性質量を事例として ◇子どもの「遊び」の火を灯し続けるために 幼児期から育まれる「知りたい！」「やってみたい！」「確かめたい！」を支える教師の役割

		◇中学校理科における中核的な概念・方略を身に付けた生徒の姿とは 「統合的な理解」と「総合的な発揮」に到達する学びを構築するために ◇マクロとミクロの視点を包括する探究活動の効果的な配置 化学基礎における年間の指導計画を軸とした学習プログラムの構築
英語教育 (大修館書店)	9月号	【特集1】実践投稿でシェアする 生成AIを活用した英語授業 ◇生成AIとの分業のために ◇NotebookLMとGPTsを活用した教科書本文理解の活動 ◇中学生の英語によるやり取りを支える生成AI活用 ◇例文ドリル・質問対応スライドで生成AIを活用した文法指導 など 【特集2】持続可能な英語教育のために 英語教師のウェルビーイング ◇よりよい授業を支える、教師自身の「よい状態」 ◇英語教師のウェルビーイングを脅かす主要なストレスとは？ ◇英語教師のウェルビーイングを支えるセルフケアの実践 ◇ポジティブな気持ちで駆動させる充実した言葉の学習 など
道徳教育 (明治図書)	9月号	【特集】簡単準備！ 導入&終末のアイデア Best Selection 2026 ◇導入：アンケート/二択の問い ランキング/小道具/実物 写真/動画 音楽/イラスト 教科書の挿絵/名言/教師の語り 日記&ノート/ゲーム クイズ/新聞/手紙 数字/漢字 連想 思考ツール/疑似体験/ゲスト ティーチャー 1人1台端末/AI ◇終末：アンケート/説話(体験談) 説話(名言)/説話(教材との関連) 振り返り(対話)/振り返り(書くこと) 実物/写真 動画/音楽 副教材/日記&ノート/漫画/新聞 手紙(保護者)/手紙(教材の登場人物) /友達との交流 数字/漢字 キーワード ランキング/思考ツール (価値関連図)/ゲストティーチャー 1人1台端末/AI ◇定番教材がさらに生きる！ 導入&終末アイデア
授業力&学級経営 力 (明治図書)	9月号	【特集】「子ども主体」の授業が苦手な先生×上手な先生 ◇[授業場面]編：導入・問題提示 めあて・見通し 対話 グループでの話し合い 学級全体での話し合い 学習形態の切り替え 授業のまとめ 学習の振り返り ◇[授業技術]編：学習規律・ルールづくり 学習環境づくり 時間配分・変更 発問 説明・指示 机間指導・見取り 板書とノート指導 1人1台端末活用 ◇教師の心理から分析する「子ども主体」を妨げる、「コントロールし 過ぎ」問題 ◇「子ども主体」の学習の段階づくり どんなステップで子どもに学びを委ねていけばよいのか ■自己調整学習 ■探究的な学び ■自由進度学習 ■自主学习
生徒指導 (学事出版)	9月号	【特集】問われる学校の意味 不登校が教えてくれること ◇特別対談「面白いの芽が見えたら、育ててみる」 当時を振り返り語る「学校嫌い」の生き方／金原ひとみ、石井しこう ◇不登校を取り巻く問題 つながりの再構築を目指して ◇「多様な育ち」を前提とした学校プラットフォームの再構築

		◇特活が不登校を減らす ◇不登校の生徒が、A I との対話で「言葉」を取り戻すまで ◇今の通信制高校の構造的課題と通信制高校希望者への進路指導 【連載】◇教室の安心・安全が高まる学び方を考える学級活動 ◇不登校 誰一人取り残さない学びの保障 先生の家庭訪問 ◇リーダのための教育視座 ハラスメント防止が義務化されます
教職研修 (教育開発研究所)	9月号	【特集1】当事者意識が避難訓練を変える 教師と子どもが考える、いのちを守る選択 ◇自校の訓練の「今」、見直すべきは ◇当事者意識の芽生え、育み ◇「やらされる」でない、「自分たちの」避難訓練へ 【特集2】私たちは、なぜ「余白」を埋めようとするのか？ ◇「余白」のある学校はつくれるか 標準時数の変遷と調整授業時数制度、その先の改革へ ◇「余白」にとまどう子どもたち 冒険遊び場に学ぶ“待つ”環境づくり ◇子どもを蝕む？「余白」を覆うデジタル刺激 退屈を奪わず、子どもの次の一步を待つ ◇教育に必要な二つの「余白」 日米から展望する公教育の反転攻勢 ◇教師と児童・生徒に「余白」のある評価を 単元構想と学習評価を一体で見直す
初等教育資料 (東洋館出版社)	9月号	【特集】各教科等ワーキンググループの審議の概要① [国語、社会] [国語] ◇国語科を通じて育成する資質・能力の在り方・示し方について ◇言葉の「行く着く先」から国語科の学びを捉え直す 「話や文章の機能」を生かした授業改善 ◇小学校における学習過程の在り方について [社会] ◇社会科を通じて育成する資質・能力の在り方・示し方について ◇課題を追求・解決する活動の充実 ◇系統性・体系性等の整理について
中等教育資料 (学事出版)	9月号	【特集】学習指導要領改訂に向けて 各教科等別ワーキンググループにおける審議状況⑥ ◇国語 WG における審議状況② (文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程第三係) ◇社会・地理歴史・公民 WG における審議状況② (文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程総括係)
実践みんなの特別 支援教育 (Gakken)	9月号	【特集】キーワードで読み解く！子ども理解のための「発達臨床的視点」 ◇宇佐川先生の「発達臨床的視点」 ◇子どもの内面 ◇教育現場での活用 ◇子どもの発達と教材の関係 【連載】◇自分の言葉で未来を描く 高等部段階の探究型学習活動 ◇知的障害特別支援学校の「生活科」「理科」「社会科」の授業レシピ ◇うちの子にジャストフィットな合理的配慮 学校との対話から生まれる
特別支援教育研究 (東洋館出版社)	9月号	【特集】発達に寄り添う 支える生徒指導への転換 ◇特別支援教育におけるトラウマインフォームドケア ◇安心感の中で主体的な成長を支える学級づくり

		◇発達に応じた「生命（いのち）の安全教育」の説明と実践 ◇学校版キープセーフの実践 生徒の表出を促し、「叱る、教えるより、気づかせる」生徒指導を目指して ◇知的障害特別支援学校における相手を意識したコミュニケーションを育む実践 【連載】◇『生徒指導提要』はいつも手元に いじめ事案が報告されたら ◇大きな音や予定変更が苦手な子どもの避難訓練は？ ◇すぐに試せる！人的ユニバーサルデザイン 都立版エリアネットワークにおける高校支援の実践報告 ◇学校間連携から地域へ広がる学び コラボ製品「苔玉」を区役所へ
学校図書館 (全国学校図書館 推進協議会)	8月号	【特集Ⅰ】学校図書館における電子書籍サービスの活用 ◇学校における電子書籍サービス導入の現状と展望 ◇教科との連携を前提とした電子図書館と電子書籍の導入 など 【特集Ⅱ】読書感想画に取り組もう ◇本が大好きな芽を育てる読書感想画の指導 ◇読書を通した対話の中で想像力と表現力を育てる読書感想画指導など
高校教育 (学事出版)	9月号	【特集】高校と大学の「つながり」 ◇高大接続改革から10年、問われる「教育接続」の再構築 ◇大学サバイバル時代で「三極化」する大学入試 ◇高校・大学共に効果的な高大連携とは ◇高校から見た高大連携のメリット ◇探究でつながる、探究を変える、高校と大学のつながり 【速報】進む、高校教育改革 【連載】◇「探究」を探究する テクノロジーを利用した創造的な探究 ◇時の眼 学力格差の要因 意外に大きい文化的経験の差 ◇学びのリレー AIも活用した持続可能な探究型カリキュラム 尽誠学園高等学校教諭 光成 拓自
学校事務 (学事出版)	9月号	【特集】事務職員の人材育成 ◇専門職としての学校事務職員の人材育成の課題と到達点 ◇全事研人材育成指標モデル 策定の意義と活用について ◇後輩に寄り添い、共に成長していく ◇子どもたちの学びを支える事務職員の人材育成 ◇高校・特別支援学校の事務室における育成と継承 【巻頭インタビュー】セクシャルマイノリティの視点から考える教育現場の多様性とは？ 【特別企画】事務職員の成長ってどう見るの？